

第1回耶馬溪作業部会(わいわいサミット)議事録

開催日時: 令和8年7月6日 14時～15時30分

開催場所: 耶馬溪コミュニティセンター 研修室

グループ	A	B	C	E
参加者数	5名	4名	3名	3名

- 地域福祉計画および地域福祉活動計画の策定:
事務局より、中津市における「わいわいサミット」の開催目的として、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画策定が説明された。
- 地域福祉計画は行政による施策目標を定めた法的な計画であり、地域福祉活動計画は住民やボランティア、社会福祉協議会などが主体となり、市内15の地区ごとに具体的な目標や行動を決定する実践的な計画であると説明。これらは、高齢化や希薄化した地域関係により孤立する住民の問題に対処し、誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するために今年度10月頃までの完了を目指して話し合いが持たれる。
- グループワークの趣旨説明と自己紹介:
事務局より、作業部会の進め方として、参加者が居住地域の自慢や個人的な体験を共有する形式が提案され、正解や間違いのない自由な意見交換が推奨された。参加者はテーブルごとに自己紹介を行い、居住地域の魅力について発表することとなった。
- 参加者からは、自然豊かな環境、景色、季節の移ろいなどが地域の魅力として挙げられた。
- グループワーク①
参加者が住んでいる地域で「いいな」と思うものや場所について、「花」をモチーフにした付箋に書き出す作業を促した。参加者は個々人で2分間思考を巡らせ、各自の思いや誇りに思う点を書き出した。
- 参加者は個々人で書き出したカードをグループ内で共有し、模造紙に貼り付ける作業を行った。この過程で、他者の意見を聞きながら新たな気づきを得たり、自身のカードを追加したりして、グループ全体で地域の魅力を可視化した。
- 他グループとの共有:
事務局の促しにより、各参加者は他グループが提示した意見を閲覧し、自身の考えに追加や修正を加える時間が設けられた。
- 各地域におけるサロン活動や、特有の地域食材、豊かな自然環境といった地域資源が確認された。一方で、地域のお祭りの縮小や活動の減少といった現状につい

ても言及された。また、独自の地域の方言や、地域会場のアクセシビリティ(徒歩圏内での活動や送迎の重要性)について議論した。

- グループワーク②:
「現時点での地域の良いところ」の確認に続き、グループワーク②では「これからの地域」を考えることを説明した。グループワーク②のテーマとして「自身が住みたい、住んで良かったと思える地域とはどのような地域か」を提示した。参加者は、現在の地域の改善点や理想の姿について話し合い、そのアイデアを黄色いリンゴ型の付箋に書き出す作業を行った。
- 住みたい地域をイメージする作業が行われ、参加者は「子供の声が聞こえる地域」「買い物の利便性向上」「地元の仕事の創出」「若い世代の移住促進」など、住みやすさを向上させるための具体的な理想像を提案した。
- 参加者は、近隣に住む住民の構成について、高齢者、単身者、農業従事者、学生、子育て世帯など、多様な住民が共生している現状が確認された。
- 先ほど挙げた多様な住民にとって住みやすい地域を想像し、意見を出し合った。具体的には、気軽にお茶を飲めるような居場所の確保や、孤立を防ぐ交流のあり方が議論された。また、言語の壁への配慮や、空き家の有効活用を通じて、移住者が定着しやすい環境を作ることの重要性が提案された。また、農業従事者の不足という問題に対し、若者の参画や、無償で農業を手伝ってくれる人材確保の重要性を議論した。さらに、高齢者と若者が交流する場として「子供食堂」のような形態を提案し、一人暮らしの高齢者を対象とした500円のワンコインサービスの実施可能性についても議論した。
- A地区では、豊かな自然やサイクリングロードなどの地域資産が挙げられた。一方で、小学生が不在である現状や、買い物環境・交通手段の不足が課題として指摘された。参加者は、文化の伝承やサロンの充実、そして若者の移住を促進することで、街の賑わいと経済効果を生み出すことへの期待を表明した。
- B地区では、保育園や小学校などの教育環境がありつつも、病院や商店の不足が切実な問題として取り上げられた。解決策として、病院通院用の専用送迎バスの運行や、女性や子供向けの専門店、外国語対応、個別のスマホ教室、ドローンを活用した日用品の配達、オンライン診療と薬の配送といったICT技術の導入が提案された。
- C地区では、地域の伝統や食文化、祭りの継承が重要視された。中津市の著名人の存在や、地域独自の漬物や伝統的な祭りのエピソードが共有された。生活面では、医療体制の立て直しや、移住者向けの空き家無料提供、独身男性の出会いの場の創出、そして地域全体で誇れる学校作りといった提案をした。
- E地区では、地域の歴史的な史跡や方言、伝統的な祭りの継続性が評価された。また、50代と80代の世帯(5080問題)への懸念が示された。移住者が住みやすい環

境を作るためには、地域のキーパーソンとの繋がりを構築しつつも、過度な干渉を避ける配慮が重要であるという意見がまとめられた。

- 事務局は、今回の作業の終了を宣言し、今後は掲示された「こんな地域にしたい」という目標を実現するために、具体的に必要な取り組みや行動について議論していく方針を示した。
- 第2回作業部会について、仕事等の都合で参加できない層へ配慮し、夕方5時や6時からの開始を検討する案が出された。希望時間帯について挙手していただき、人数の多かった日中の時間で実施を検討する。